



源氏ル下巻第六

あ

一あけくわむじちんもん也

暹羅

當選 日本記

一あつむど 不慮なる也

あつむれちり

也又あつむろむむもももあつむれとまもん也

あつむれ

一あつむらち

あつむらち

一あや

あや

あや

あや

ハタチの... 源氏ル下巻第六



ありんちもささき也 一あさきまつりごと 春露
若穂日高起 後此君多 不早朝 長恨哥
一あさきがれお 禁中 朝餉の間こそ二房あるも比
あそは腰を廻る也。早朝よまらる也。常の儀は
まはあさきを衽袂也。著とらふおとよさくもさう
てあさきもあつる也。けさも著をわたりきると
あさきもささきおとらり
一あさき
仇敵 一あさき
源氏よことうどくれとさきも也
一あさきしとれとあさきもささき也

一あさき 不意にさき也 一あさき
ささきも也 縦横 ささきも也
一あさきく ささき也 一あさき
一あさき 出鱈目 一あさき
一あま 著とれおさきもささきも
いひささきもささきもささきも
とあさきもささきもささきも
一あさき あさき 一あさき
一あさき あさき 一あさき
一あさき あさき 一あさき
一あさき あさき 一あさき

一あまのつねの 源氏のつねがむらふに ヤマト ねむらふん
とまらふむと 注 人のまらふむらふ也

一あまの 熱内也 一あまのまらふむらふ也

一あまの 人まらふむらふ也

一あまの 家まらふむらふ也 朝露 貪名利 夕陽

一あまの 縁 自氏文集 諸院 注 別當

一あまの まらふむらふ也

一あまの まらふむらふ也

一あまの まらふむらふ也

一あまの まらふむらふ也 如脚

一あまの まらふむらふ也 軟

一あまの まらふむらふ也 穴賢

一あまの まらふむらふ也 岡伽林 九語也 水と翻

一あまの まらふむらふ也 雅波

一あまの まらふむらふ也

一あまの まらふむらふ也

一あまの まらふむらふ也

一あまの まらふむらふ也

一あまの まらふむらふ也

一あまの まらふむらふ也

あまの ねね也 一あはすまのしるしあまの
 うつらりよめる花のま あはすまのしるしあまの
 どのうづとくし。今ぬふのちり。のねりの花は色も
 也。うねりののじとけは風俗奇よりせらる河也。又
 うらめれ花つと梅の花とくもよまもあや
 まねるあまのしるしの河もあまの

一あはすまのしるしあまのしるしあまのしるし

一あはすまのしるしあまのしるしあまのしるし
大樹むらりともよま

一あはすまのしるしあまのしるしあまのしるし
衣とよまぬるあまのしるしあまのしるし

一あはすまのしるしあまのしるしあまのしるし
あはすまのしるしあまのしるしあまのしるし

と恨らる也

一あはすまのしるしあまのしるし

和泉式部。修成記。くく人の扇とさりうてとら

けり。東坡詩云。換扇惟逢春夢婆とけ

きり。よまぬるあまのしるしあまのしるし

とちりあまのしるしあまのしるしあまのしるし

合衆扇らどとらあまのしるし

一あはすまのしるしあまのしるしあまのしるし
 清く細く柄も良

るゆめり。あまのしるしあまのしるしあまのしるし

あまのしるしあまのしるしあまのしるし
松扇のあまのしるしあまのしるし

あまのしるしあまのしるしあまのしるし
あまのしるしあまのしるしあまのしるし

跡よきくも也

一併つらうほそびておての

あまのこころをたのむらりら此結おてあはれたるを
あるべき
一あひらのまじりかた

下もたれた九車ハ唐庇檣檣庇毛車ホハ尺

ハ。檣檣とてそく尺眉奉部細代ホハは皆

わづろともなり。今内息ホのあづろにづれと定う

く。他尺眉ハ。お秋志濃のトもたれたそくわづ

ろの車ハト下すたれとてひきまこりども。女房の坐

用とてさるへ。公葉の車もト下すたれとてさる

又ゆれづれおてとお遠ちるべし。まじりもれ

くらひらびる也

一扇のつまみありそ。檣檣

のこころをたのむ

一あひらのまじり

思ひに。此中たあはれたるあり。この地也。おとちるへ

まてハ。この田のまじりもたれ。かまじり

一取とちりくも。こちもちり。文選。平山律。如朝。為行雲

暮。為行雨。一あひらむまじり。中。文

へ。引。法也。寶壽。六年。正月。七日。天皇。御。極。梅。院

安殿。護。上。宴。於。五位。以上。既。而。内。上。既。宴。進。青。衣

略。之。河。海。毒。一あひらむまじり。は。ゆ。き。の。し。ま

秀。逸。と。後。成。つ。女。屋。也。そ。ち。に。れ。つ。れ。ち。り。ま。し。ま

やぶ洞のこゝろにあらむとも也。舞臺やうよりのこゝろ

一あまのたのこまごひの夏の様也

一あまのり 水入娘 一あまののちうまのこゝろ 琵琶

一あまのり 假知娘 舞臺 琵琶 於 揚曹 二善才 奉

一あまのり 張色 妻 身 射 高 人 婦

一あまのり 梅 女 あま

一あまのり 童の 馬 牛 飼也 及 の 総 角 ち う ら の ま

一あまのり て 也 童 の あ め 也 又 車 ぬ と る と

一あまのり 女 陪 多 竹 丸 物 流 ぎ 略 之

一あまのり 童 の あ め 也 又 車 ぬ と る と

まろ物也。水干はまのやうな物也。赤は又のうらまの

横がまのうらまの。紅なまのねの物也。あまのり

もくまの物也。なまのねの面うらまの紫 妻 崩 装 也

一あまのり 三 歳 まで 用 て 法 も ぬ ぬ

一あまのり あま の あま 也 天 兒

一あまのり あま の あま 也 何 人 の

うらまのり うら の ま の あ め 也 又 車 ぬ と る と

一あまのり あま の あま 也 何 人 の

一あまのり あま の あま 也 何 人 の

一あまのり あま の あま 也 何 人 の

一あまのり

一あまのり

ハナミと世よ深るる路とべー

一あつちらる兒 去邊達世倍あつちらるたといふ

よ回 一あまふちまふれいちまふ

ととに落後股也 一あまふちるたら也 あま

つこのころ也 一あつちらる 且異者也

一あまふち 去邊也 一あつちらるるのまふ

古 一あまふちひらりくさしむるまふまて者ぶらまふ

け奇少くやうべ一勝者の夜あて内ちたれは女らる

あつちらるる也 一あまふち 天子と軽月

このまはよまふた我と馬路ちる也

一あまふちと けりまらるるは然と輕よまらる

る也 一あまふちのさうめり

同くはまのさうめり也 奇とひまもと織丸回

まらるるのさうめり也 奇とひまもと織丸回

月流の耐用家探解也 合誌一釋也

一あまふちのさうめり 裳まよと所持るるさうめり

一あつちらるる也 あつちらるるのまふまのまら

よ文字とまら水石をもちとけりまらまら

一あまふちと 信馬末の奇れ若垣のさうめり也

あつちらるる也 奇少將るるのまら

也。亦云禪心

一あふらうこうきく

のまはらうとらり

一あまの柳らうき

あまのうらうらうが也。善舟ハ濃き一表を

とせよ

一あうらうせよのら也

一あうらうらうらうら

友のうらうらうらうら

あうらうらうらうら

一あまのうらうら

せき不案固如氷沫泡煙 法花經

一あうらうらうらうらうら

花也

一あまのうらうら

今れらうらうら

一あまのうらうら

のあうらうら也

一あまのうらうら

駿馬 穆の歌。は身は駿馬とく也

一あまのうらうら

一あまのうらうら

一あまのうらうら

一あまのうらうら

一あまのうらうら

一あまのうらうら

一あまのうらうら

あつねだとも

一杖の事ゆゑの事よよ七

日つのお念ふや

一五月の月十五日の後

はるかなる一匡房後日本記二十五日以後
解と号をも

よきとくはらむゆゑの事よよ七

也月隠重山今撃扇論之 朗詠

一うきほくをまよふれと山字治よよ七

一あづろ 細代江列田上るるりれらとれはり

一あづろ屏風 昔は山置ちるとたわりの事よよ七

やは定むれは骨片面と平く細絶して

せらる物なり。遠藤屏風とつり。又ひあつろの屏

風はまゆたふら九車れひあつろ八竹とつり

一あつろはまゆたふら九車れひあつろ八竹とつり

馬車の事とれて修り

一あつろ 藤田文選ゆゑとつりてあつろ

あると

あつろはまゆたふら九車れひあつろ八竹とつり

一あつろはまゆたふら九車れひあつろ八竹とつり

一あつろはまゆたふら九車れひあつろ八竹とつり

一あつろはまゆたふら九車れひあつろ八竹とつり

舟
舟
舟

一 舟の内供むる傍友十餘所は補さるれり

一 舟のらふふらん 寝屋の製造は作也

一 舟のらふふ物 漸泥 鞆也

一 舟のらふふ物 浮舟の舟とらふと一 舟のらふ物也

一 舟のらふ物 院とて傍舟とて付し也

一 舟のらふ物 舟に注ぐ也

一 舟のらふ物 舟に注ぐ物也

一 舟のらふ物 舟に注ぐ物也

一 舟のらふ物 舟に注ぐ物也

一 舟のらふ物 舟に注ぐ物也

一 舟のらふ物 舟に注ぐ物也

一 舟のらふ物 舟に注ぐ物也

一 舟のらふ物 舟に注ぐ物也

一 舟のらふ物 舟に注ぐ物也

一 舟のらふ物 舟に注ぐ物也

一 舟のらふ物 舟に注ぐ物也

一 舟のらふ物 舟に注ぐ物也

一 舟のらふ物 舟に注ぐ物也

一 舟のらふ物 舟に注ぐ物也

一 舟のらふ物 舟に注ぐ物也

一 舟のらふ物 舟に注ぐ物也

一 舟のらふ物 舟に注ぐ物也

一 舟のらふ物 舟に注ぐ物也

一 舟のらふ物 舟に注ぐ物也

一 ちんちん 軒窓 万々 ちんちん 也

一 ちんちん 軒窓 万々 ちんちん 也

一 ちんちん 軒窓 万々 ちんちん 也

一 ちんちん 軒窓 万々 ちんちん 也

一 ちんちん 軒窓 万々 ちんちん 也

一 ちんちん 軒窓 万々 ちんちん 也

一 ちんちん 軒窓 万々 ちんちん 也

一 ちんちん 軒窓 万々 ちんちん 也

一 ちんちん 軒窓 万々 ちんちん 也

一 ちんちん 軒窓 万々 ちんちん 也

一 ちんちん 軒窓 万々 ちんちん 也

一 ちんちん 軒窓 万々 ちんちん 也

一 ちんちん 軒窓 万々 ちんちん 也

一 ちんちん 軒窓 万々 ちんちん 也

一 ちんちん 軒窓 万々 ちんちん 也

一 ちんちん 軒窓 万々 ちんちん 也

一 ちんちん 軒窓 万々 ちんちん 也

一 ちんちん 軒窓 万々 ちんちん 也

一 ちんちん 軒窓 万々 ちんちん 也

一 ちんちん 軒窓 万々 ちんちん 也

一之史五經 史記 漢書 後漢書 易經 禮記 左傳 尚書 周易

一 史記 漢書 後漢書 易經 禮記 左傳 尚書 周易

一 武德殿 武德殿 武德殿 武德殿 武德殿

一 武德殿 武德殿 武德殿 武德殿 武德殿

一 武德殿 武德殿 武德殿 武德殿 武德殿

一 武德殿 武德殿 武德殿 武德殿 武德殿

一 武德殿 武德殿 武德殿 武德殿 武德殿

一 武德殿 武德殿 武德殿 武德殿 武德殿

一 武德殿 武德殿 武德殿 武德殿 武德殿

一 武德殿 武德殿 武德殿 武德殿 武德殿

一 武德殿 武德殿 武德殿 武德殿 武德殿

一 武德殿 武德殿 武德殿 武德殿 武德殿

一 武德殿 武德殿 武德殿 武德殿 武德殿

一 武德殿 武德殿 武德殿 武德殿 武德殿

一 武德殿 武德殿 武德殿 武德殿 武德殿

一 武德殿 武德殿 武德殿 武德殿 武德殿

一 武德殿 武德殿 武德殿 武德殿 武德殿

一 武德殿 武德殿 武德殿 武德殿 武德殿

一 武德殿 武德殿 武德殿 武德殿 武德殿

武德殿

「されいふやうにさうなればかたがたの義也
「さく花よらつてなほくつらなまやしてか
まのつる河也
「女也」詠言一もさういふあはれは源氏のうつ
まはられたる重子とていふ
「まづいふものつらてさうなまはる 封也」よる。
のまよとちもちり 一それの守もなるちの守
め。前播磨守護也。まはちハ新發意也。御教
心のも也。明石八道也。一まはちハ 去也。也。
也。一葉よとていふこと。御教のまはる。

「さく花よらつてなほくつらなまやしてか
まのつる河也
「女也」詠言一もさういふあはれは源氏のうつ
まはられたる重子とていふ
「まづいふものつらてさうなまはる 封也」よる。
のまよとちもちり 一それの守もなるちの守
め。前播磨守護也。まはちハ新發意也。御教
心のも也。明石八道也。一まはちハ 去也。也。
也。一葉よとていふこと。御教のまはる。

山まていねおとと。中將のあつらひなるを
あつらひや。今も山馬の名おあられた。家
ねの入山也。 一まねのつらゝる。たれ後
當時は物とらひあふふらゝるもの也。
一さまのよまもや。さつらめてゆかゝる也。
一さつらひ。體莊子。やまゝさつらひ也。
一た近命ぬひどのうねへ鼻のあつた人ぬぐし
一さまのさつらひ。すたひ。一足の内は後とあり。ま
きつらりまつむゆえさつらひなるもあつらひくあめ
さつらひや。されだゝさつらひ何なる也。

一宰相あり。系保はカノ行奉。延永十六年。
新御院法皇みすた。行奉保忠。其時系
保たつた。 一まんざらゝる也。 参考
と系保のる。治出のあつた也。え此の
一さんのおち。弄 弘徽。南やまもさつらひなる。廊を
さつらひとれえのる也。 一さつらひのさつらひは
一は何れ。幸奉もとあり。今も案じおほ
よ二もよおち。まねのさつらひのさつらひなる。これ
さつらひのさつらひ何れと。紋もさつらひのさつらひ
めつとさつらひなる。おほひ。さつらひの二字ある也。

のごとく。唐の長秋をそとて多きものあり。あつたを
 下まねうのよきゆゑを。唐の緯と用らる也。極
 のつたはは面白う。此に蘊芳はう。と
 けらるもの也。 一、女まゝ。おまひ。いな
 花女まゝト定ハ去年ちり。今もあや。び秋のま
 又ハ流り。く。り。則明年ハ群行の。り。ま
 一、弄。女まゝ。は。は。一。度。り。り。も。は。ま。ま。朱。雀。
 此位よ。い。り。を。あ。て。女まゝのト定。る。り。と。ら。る。べし。
 女まゝの起ハ。岳仁天皇廿五年。丙三月。依祿宮
 託宣奉。祝伊勢国五十鈴河上。以中上皇子

ヤマト倭姫命。今。着。有。此。系。後。是。女まゝ。始。也。河海委
 一、女院。漢。儀。天皇。弘。仁。元年。置。女院。司。以。皇。女
 有。知。内。親。王。母。交。野。為。女。王。神。夏。式。之。九。天。皇
 即位。定。賀。賀。茂。大。神。女。王。仍。簡。内。親。未。嫁。者。定。
 一、さ。ら。ま。れ。り。り。神。の。の。憚。の。也。
 一、女まゝのた。ま。の。の。つ。さ。た。ま。の。の。つ。さ。と。ハ。伊。勢
 け。ら。る。の。も。や。さ。の。め。れ。て。後。に。妻。の。役。室。の。を。と
 して。初。て。女まゝ。よ。せ。ら。る。を。あ。つ。つ。も。は。ま。ま。と。あ。や
 乞。ハ。た。湯。心。初。ハ。坂。ま。ま。と。云。り。教。隆。院。云。伊。勢
 へ。ら。さ。く。せ。流。り。ん。と。て。乙。年。齊。之。向。ト。定。ま。る。る。也。

長秋

乙未

こと云ん

一 聖徳太子の御子と云ふこと云ん

也 弄伎文の額と云ふこと云ん

一 在又中將の御子と云ふこと云ん

素平の御子と云ふこと云ん

一 弄伎文の御子と云ふこと云ん

一 弄伎文の御子と云ふこと云ん

一 弄伎文の御子と云ふこと云ん

一 弄伎文の御子と云ふこと云ん

一 弄伎文の御子と云ふこと云ん

一 弄伎文の御子と云ふこと云ん

一 弄伎文の御子と云ふこと云ん

一 弄伎文の御子と云ふこと云ん

一 弄伎文の御子と云ふこと云ん

一 弄伎文の御子と云ふこと云ん

一 弄伎文の御子と云ふこと云ん

一 弄伎文の御子と云ふこと云ん

一 弄伎文の御子と云ふこと云ん

一 弄伎文の御子と云ふこと云ん

一 弄伎文の御子と云ふこと云ん

一 弄伎文の御子と云ふこと云ん

移りかへすまゝに送^ハのあぢえりりる也。ほやくもるうら
いらしき也。 さらさら物^ハのうらさを何

々として見^ルす。おび^クうらさし

一さしぐすすさうらちみと。ゆぐ^ク守^ルま^スも^カ也。

一さしぐすを舟の装束也。玉形^ハのあはひ^ハ情^ハの情^ハ

る也。 一よりぬ^ハち^ハう^ハれ^ハと

五月よみなを送ぬとらり 一さしぐすね 昔^ハ蒲^ハ八^ハ面

青裏紅梅也 一さしぐすのうらさし

か^ハ奇^ハのうらさしを引^クてらり

一おまゑ 唐^ハのまゑは^ハおま^ハ憐^ハら^ハおま^ハと

也。六月月丸おまゑをい^ハう^ハま^ハう^ハい^ハう^ハら^ハと^ハ也。女^ハい^ハそ

う^ハて^ハひ^ハく^ハべ^ハし^ハと^ハら^ハり 一さしぐすをい^ハう^ハま^ハう^ハち^ハと^ハ也。地

大^ハま^ハと^ハ書^ハる^ハ云^ハ郷^ハ乃^ハも^ハ也。時^ハ法^ハ也

一^ハの^ハ朱^ハ萑^ハ院^ハ 兼^ハ平^ハけ^ハ世^ハに^ハ考^ハハ^ハ字^ハ多^ハ帝^ハと

兼^ハ朱^ハ萑^ハ院^ハと^ハ也。今^ハ朱^ハ萑^ハか^ハり^ハま^ハ守^ハゆ^ハも^ハ也。兼^ハの

字^ハと^ハい^ハへ^ハる^ハ也 一さしぐすい^ハう^ハま^ハう^ハち^ハと^ハ也

一さしぐすのち^ハ方^ハ兼^ハ集^ハび^ハち^ハ方^ハ兼^ハ集^ハる^ハも^ハ法^ハ抄

さしぐすに愚^ハ案^ハも^ハ方^ハ兼^ハ集^ハる^ハも^ハ別^ハの^ハ中^ハ奏^ハと

ん。う^ハら^ハち^ハと^ハい^ハへ^ハる^ハも^ハ方^ハ兼^ハ集^ハる^ハも^ハ席^ハあ^ハる^ハも^ハ也

何^ハ也。これ^ハ世^ハ中^ハに^ハち^ハり^ハや^ハら^ハる^ハも^ハち^ハる^ハも^ハ律^ハ代^ハち^ハり

けり時のみぞく人の事とてあつめて万葉集
 とらひておほくはつてをたわもつたもの
 わくしむにそひてよみ人らもど 略之サカ
 内門の内撰也 一云うらふ屋と人 唱歌の
 屋と人せしむる唱舞と 一云うらふ屋と人 唱歌の
 よくよりあひの時えもぬれよきひたけりれと
 むとあつとす也 一云うらふ屋と人 唱歌の
 女とて次よとつりさうを櫛の縁也
 一云これの内堂あて某所見松尾素原氏の建
 立栖霞とよはせりるに某所いふ命とつゆ也

一云いそしつとすやう 寂勝王経の金剛般若壽
 命經 河 一云いそしつとすやう
 甲子笑以後短命の例多し 花名 照定と云
 親十七年甲子笑一して死て甲子七めて薨とて貞
 信も延喜十九年甲子笑あるとて七十年歳まで薨
 とす。この例とわれど多し。つとてつとてつとて
 るとてつとてつとてつとてつとてつとてつとて
 加也。若等大人 饑も折云 到臨院安養食東
 還船穢まな人天心れ
 一云うしつとす、双紙のしすもやとあつたまらつと

滋給也

信のまが守也

一この院源氏暖煖ありありして後をまゐる
 う也暖煖をまゐるは道世ふはしてまゐり
 一この院の別當 後上人と云 別當はちまゐるま
 づるべしとまゐるまゐる也林中ゆては後上の別
 當方大僧もどぬべし。美をまゐるまゐるや
 一さうくし 子の不血。丸くしてあがりては血を
 懐中して退出せ。それとてぬくもてぬく
 一この院のふあうふあうとてぬくもてぬく
 一この院のうらぬをぬくもてぬく

一この院

難事

くく女房ありてぬくもてぬく

とぬ

一この院のぬくもてぬく

信改

一この院のぬくもてぬく

ぬ

一この院のぬくもてぬく

一この院のぬくもてぬく

一この院のぬくもてぬく

一この院のぬくもてぬく

一この院のぬくもてぬく

一この院のぬくもてぬく

一この院のぬくもてぬく

一この院

一この院

一きんねのすゝく 梟鳴松桂枝狝蔵蘭菊
義

乃どあり是ハ美也一きんもち 公孫伝所
在高名塚 泉女正巨勢令思一思之民也

一きぬのしつり 松月の宿よりうりせ
れらるまうけの物多あられが丸あへむ女のお衣

末とつひつらうし也。うらふの桂乃巻よ女乃
お衣まうけらるらんやまき

一きんぢくハ汝等也一きんぢくの女は日ねはど

勸院ハハヤカ多あり。非又み之時 行幸上
皇宮例天長十一年正月二日。在明天皇幸宋
菴院他母后依因宿謁太后干栢庭見本ア
王記ニ
肥前国松浦郡鏡神也。が幸小郡解原廣
繼靈也。又鏡山も神功皇后の鏡作て石
とありとも。後山とつり。是とも後の子ともい
や。下の洞は松浦鏡法同社也。つりともい
ハ。清水八幡と同社。のり。実くゆり。此ハ後の
津よ二の巻まへへきたり

一 ぎすくの人あてすくや也

一 軒春系 呂也。或リ音ハ長 律ヨリウをき

喜春系ハ黄鐘調の系也。平調をわくして

用るも也。可為弄久りくも。律の呂もあつても

呂律ハ身 一行香の人で 花蔭塗

香ちどぐらつて人也。後上人のすくも也

一 水切りてぐらつて 水面ハ内の方也。南面也。晴也

とくもろあ也 一 忠行 号滋野井弁 光孝天皇由縁

一 百陽夜 日華作の北也。震震夜のつても也。弁の

彩夢ともなふあつて一水の甲ん水の別也 花

世上の家也。女房とぶのこ又ハ政也。あち

今よりそつひくふら。いまよりハち方源氏の宅也

のまつら。おのぬわとつらんよはるのあらんやと

一 ちやうくちやちや 花 軽也。鞠のり也。ちやちや

りまさ花と云也 一 琴のこころれとて人 琴

よハスのちくぶあつてとつら。河海一は格也

二ハ八斤金とて水字好。四ハ八奈海波。又ハ名

鳴調是也 一 ちよつとつとつとつと

ちやちやなまもまもまもまもまもまもまもまも

花蔭塗

花蔭塗

みぬとのらん也。伝記は甲午を拾て仕とつらあつ

たむ。柘木今年女ふたれ

一本のゆかりよまきもつり唐穆宗ハ毎ニハリ花開

重頂帳テキタキヤキヤラ一きぢぢぢ浄修也

一そちくして若のうけもちハムハ後往還と云

一あともあざりハ何と云はらとらりけふの御給遣ニ

一そちくもつハまのちまもつますは辰のまもつびら

とのらん也奇やとりホ一まこぬまふれぬち柘木

たハたをとらるくあハ中々をそれとらるちた

ちとらまもつとも也一さんのお琴チン也

河今ホノイマ天曆三年の若童の女ハあぶら九条在

御相の女也ムスメ延喜元年の女ハ勅子内親王ハ則九

条後の宮よちりもつり是よりつて延喜元年の西門

の勅子内親王は治もと治へる華の傳をさせ

了治しゆと今のことハ治ゆ。六条院の女と云ふは

了多ししれれ後よ云ちるもつらり弄華の系

ら也ハ治也。文とらつて治也ハ比例ハたも

一ませいととキ碁聖。備前掾良利良利肥前國友

津郡大村人也ヒコ出都して名寛通チ為子院

後と治也テニ亭みは治也ホ山あまの対治とと

河今

三十一

けり。大和物語後よのをゆり。其のころもあつた
 らう。其の聖とつり。延喜十一年五月廿日基
 聖奉勅依其式獻定ま
 一 ことごとく けせの岸也。望を尾よるりち
 て。我と念心とこさんとちり
 一 きらりつづ 藁泉也。日本記伊弉册の
 つらみ入るを。陽のまらひもあつたり。そ
 れとるのほ舟のまらひとつり。そ
 一 ことごとく 競也。あつたり也
 一 きらりつづ 后よて成人とま也。むじつひとむじの

キリヤン
量也

一 ゆきふ 交加と新り。めりひもあつたり
 一 ゆびの令婦 勅員とま也。夫をいつり。まこと
 つらあつたり。たはつハラスとますつらとちり
 らう。ゆびとつり。令婦ハラスの世に内侍のゆき
 織物とまをの中らうと。昔も令婦ハラスとちり。
 侍に己下の女也。新人とまハ下鴈のまれとま
 けま新人も令婦つひ。新人とつひとてあつたり
 一 ゆきつづ 秋の月也。夕陽也。万

後拾遺

三十三

一ゆきまのりて 後拾遺 案国忌部祖天日御尊

遊木綿者 日本記 一ゆきまのりて 木綿を織

カケケ 藤懸馬平襪 古語拾遺以天香久山之天日

とらり 一ゆきまのりて 古語拾遺以天香久山之天日

とらり 一ゆきまのりて 古語拾遺以天香久山之天日

とらり 一ゆきまのりて 古語拾遺以天香久山之天日

とらり 一ゆきまのりて 古語拾遺以天香久山之天日

とらり 一ゆきまのりて 古語拾遺以天香久山之天日

とらり 一ゆきまのりて 古語拾遺以天香久山之天日

とらり 一ゆきまのりて 古語拾遺以天香久山之天日

とらり 一ゆきまのりて 古語拾遺以天香久山之天日

とらり 一ゆきまのりて 古語拾遺以天香久山之天日

とらり 一ゆきまのりて 古語拾遺以天香久山之天日

とらり 一ゆきまのりて 古語拾遺以天香久山之天日

とらり 一ゆきまのりて 古語拾遺以天香久山之天日

とらり 一ゆきまのりて 古語拾遺以天香久山之天日

とらり 一ゆきまのりて 古語拾遺以天香久山之天日

とらり 一ゆきまのりて 古語拾遺以天香久山之天日

とらり 一ゆきまのりて 古語拾遺以天香久山之天日

とらり 一ゆきまのりて 古語拾遺以天香久山之天日

とらり 一ゆきまのりて 古語拾遺以天香久山之天日

とらり 一ゆきまのりて 古語拾遺以天香久山之天日

とらり 一ゆきまのりて 古語拾遺以天香久山之天日

とらり 一ゆきまのりて 古語拾遺以天香久山之天日

とらり 一ゆきまのりて 古語拾遺以天香久山之天日

とらり 一ゆきまのりて 古語拾遺以天香久山之天日

とらり 一ゆきまのりて 古語拾遺以天香久山之天日

とらり 一ゆきまのりて 古語拾遺以天香久山之天日

と八柙ハクサも也。琴コトの行ユキは也。弄ノリ回マユ之

一ゆふこころのれとゆふの酒サケのさぶらふら物
ゆふのさぶらふら物モノのさぶらふら物モノ
れがさぶらふら物モノのさぶらふら物モノ

一ゆふのさぶらふら物モノのさぶらふら物モノ
墓草ツツミクサ初秋ハツアキ紀キ在在肩カニ 是コトは右將軍サマ保徳ヤスチカのコト也

一ゆふのさぶらふら物モノのさぶらふら物モノ
あつと今イマあつと今イマあつと今イマ
優ユウ美ビちり物モノのさぶらふら物モノ
節フシね遠トホきも。あつと今イマあつと今イマ

一ゆふのさぶらふら物モノのさぶらふら物モノ
つらけ難ナガシ多シ。又マタちも何ナニ物モノと云イハ唐カラ名ナは合カヒ五イハ日ニチ將軍サマ

一ゆふのさぶらふら物モノのさぶらふら物モノ
らるラ并ナヒ吉ヨシと云イハれさるス也ナリ河カハ寛カン吉ヨシ

一ゆふのさぶらふら物モノのさぶらふら物モノ
まがはさるス也ナリ僧ソウと云イハるス也ナリ僧ソウと云イハるス也ナリ

一ゆふのさぶらふら物モノのさぶらふら物モノ
夕タタ北キタ夜ヨ 野ノ舎ヤ 負オシ名ナ利リ夕タタ陽ヨウ おお子コ孫ソと云イハるス也ナリ

一ゆふのさぶらふら物モノのさぶらふら物モノ

一ゆふのさぶらふら物モノのさぶらふら物モノ

一めくらししおほきく 諷也 車は立石ちかひはるる

一姉はちのく 江別 宗奇部高屋の法

一む村ま また 一めうとくちて世後又

一めくらししおほきく 一めめめ目ゆい也

一めくらししおほきく 一めくらししおほきく

一めくらししおほきく 西京抄 院又難ふ中此身

一めくらししおほきく 勅行 繼義時 今宗親王家又み

一めくらししおほきく 武平守 親王嫁娶之時 繼以下後二万也

一めくらししおほきく よふ由一の記は凡くくると旨ふのちも

一めくらししおほきく 又知是院 院のち行よ

と具きしゆとさう一也どなりハ麻舎人ちどえ

五位之位のゆき 一めくらししおほきく

一めくらししおほきく 一めくらししおほきく

一めくらししおほきく 一めくらししおほきく

一めくらししおほきく 一めくらししおほきく

一めくらししおほきく 一めくらししおほきく

一めくらししおほきく 一めくらししおほきく

一めくらししおほきく 一めくらししおほきく

一めくらししおほきく 一めくらししおほきく

一めくらししおほきく 一めくらししおほきく

一 乃内夜也長荷

一 みるむらひひさるて 簾とひくも也

一 みるのくもも 檀位也。もむれも也

一 此ハミ 毎季きまらる也

一 みるはさくあつらる一みるはさくハ相帝ある也

ハ臨めり也

一 此くみみちなるもきびく

古墳何せん不識姓兼各化外諸侯土年々春

軀生天

一 みるはさくもきびく 怒めり

也はさくもきびく一みるどのほりもさくみも

よじへし日本記ハ妃の字とみもももあらけり也

一 みるはさくもきびく一みるもきびく一みるもきびく

一 みるもきびく一みるもきびく一みるもきびく

一 みるもきびく一みるもきびく一みるもきびく

一 みるもきびく一みるもきびく一みるもきびく

一 みるもきびく一みるもきびく一みるもきびく

一 みるもきびく一みるもきびく一みるもきびく

一 みるもきびく一みるもきびく一みるもきびく

一 みるもきびく一みるもきびく一みるもきびく

一 みるもきびく一みるもきびく一みるもきびく

一 みるもきびく一みるもきびく一みるもきびく

一右の人の... 下づくえ 天徳寺念石
 方洲濱沈机浅香下机浅無浮文織地地
 云云 今更右海沈の甚よ入ら。花野ハロ
 しくせられら中みくら何本あつたらん
 えずせんころ沈のあまたを云下机をつく
 舞ハト机つくりの地家のま地つこまの縁せ
 ののころはなまをくくやるくも也河海ハ
 多このあまをむまひら中あつたらん
 多し。きぬのくもいあむむすじ
 一民ア太補意より流るる 民ア太補法行・兼明

親王二男の... 一みしゆりの
 しくあけ巻よまあしの飛えよ権
 る也弄れんもあつと対面あつて
 院よそ久あくがりたれ我も今も年
 りも昔よあつること心よ花のさ
 んと也 一みとらて後と結みよ
 松風よあつと人と云らるる海をく
 かまうらあべし後世とこひく
 一みとらとあびさるる 香炉
 看天 一門の

康子の親王皇女村正帝の時皇女祭儀ありて
けつに九多右と云ふ御ひてまひくも終ひの例に
多し之

一みかろの例なり
一みかろの例なり
一みかろの例なり
一みかろの例なり
見よと云ふなり

一みかろの例なり
一みかろの例なり
一みかろの例なり
一みかろの例なり
一みかろの例なり

一みかろの例なり
一みかろの例なり
一みかろの例なり
一みかろの例なり
一みかろの例なり

一みかろの例なり
一みかろの例なり
一みかろの例なり
一みかろの例なり
一みかろの例なり

一みかろの例なり
一みかろの例なり
一みかろの例なり
一みかろの例なり
一みかろの例なり

の指の文のこころ。袴も同。或は系木南地のこぬ
うさしめさともいふ中をたてり。襦子フダは下にさる
ころよりのもの也。之は衣をけくへし冠カサ兼カサ襦フダ冠
をさるべし。仁和寺河行幸。行幸中納言ユキヒラノ大納言オホノリ
飼カのうり衣ユ。鬘カサと文ウよひヒころも。玉タマ那ナの衣ユ
袖カサのカサ也

一みどののあつら 延喜昌
表ウラ約ヤク幸キョウ制セイ也。法ホウ片ヘツは必カナラまマにニ衣ユの袍ホウなり。中ナカへノのニ
心ココロ。主ヌシ上ノとト同トらラるルもモとト也。河カハ延ノ喜キ四年十月九日大
井行幸上ノ服フク赤アカ衣ユ袍ホウ黄ワウ袴カサ深フカ衣ユ袍ホウ文モン竹タケ風フウ袴カサ
儀ギ法ホウ片ヘツは必カナラまマにニ衣ユの袍ホウなり。中ナカへノのニ
儀ギ法ホウ片ヘツは必カナラまマにニ衣ユの袍ホウなり。中ナカへノのニ

一みあつら 足タラシ命ノミ也 一みあつらふらフらラらラとト也

本ホハ天子テンシのノ出デらラるル也也一みミらラりリ用ヨウのノ也也一ヒトみミらラるル中ナカにニ河カハ延ノ喜キ
あアつツらラるル也也一みミらラるル中ナカにニ河カハ延ノ喜キ
點テン方ホウ侍シ從ジュウ梅ウメ花ハナ寛カン教キョウ侍シ故コ記キ云クニ春ハルハハ子コ加カ納ノウをヲ

一みあつら 一みあつらふらフらラらラとト也
一みあつら 一みあつらふらフらラらラとト也
一みあつら 一みあつらふらフらラらラとト也
一みあつら 一みあつらふらフらラらラとト也

中ナカ者モノ或シハハ禊シ衣ユのノ也也一ヒト日ニチとトハハ禊シ日ニチとト也也一ヒト生シ衣ユのノ也也

九
下

の
下

ハ非語はあることごとく。糸時ハ旅一あるや

一みちのほごりもく。つらきなまふといふこと。遊
びのふろ布又鞆ツツは巻マキとふれらるること也

一みち一あつうふひのむさ院のうふひ 内尉ウチノウヂ子コあが
魚一人須臾スズナア遊アソビは女メ人ヒト謂イハレ猪飼ブタケは人ヒト細作コソクホ

之形也 呼ヨ六条院あつものも也 内尉ウチノウヂ子コあがの物モノ
釘クギのあつうふひは内事ウチノコトとある物モノ也 一也 内尉ウチノウヂ子コあ

ハ主上の内膳ウチノテと流ユらるる事也 一也 内尉ウチノウヂ子コあが
糸猪飼イトブタケちるべし 一みちとたふらあるや

一糸猪 朝觀テウケン行幸キョウキョウ由ヨは帛ヒト給キとふまぐりよ

と殊ト一給キらるる事也 一糸猪イトブタケはちるらるる事也

之男唯オノヲ一心イツシン外ソトを御法ミホウのこころらるる事也 一
ともしとこもあつてある人ヒトにあつてある事也

一内膳ウチノテ本膳 強チカラとは戸カドのまのぬの膳テとある事也
一糸の格カキ佐サ 中ナカ糸イトのたまもどいふ事也 院イノの屋ヤ上ノ

ともし中ナカ糸イトとつらけて糸イトは人ヒト知チべし
一みちちまんとあつてはの男ヲとらびんこの院イノ後ノチに

この御ミあつてある事也 一みちとらびんこの院イノ後ノチに
とつらびん事也 一みちとらびんこの院イノ後ノチに

とつらびん事也 一みちとらびんこの院イノ後ノチに

糸猪

朝觀

心ふるくもぬるのんせ。秋の下のとてやうととるれ
とほげまの上も秋よたててとりもる茶山ハカサリ養賢國
ぬる也。是は只交まを運。一馬軍中せたるのむもつ
と六也府の官人。六縣知こはたを束府た
た遠つ府。たを若忠府也。是をた馬けくこ
六也府とハのあ也。以上六人ぬべし。内ニカトづらと本家
院へあるは馬也。之例河海たもる。毒略之
一みやい 風流ちるつらさるり
一みやい 施介 給琴もひんとをも寄進キジン
一みやい まるぬらう けまよと深もまふ申とくは氏

とくともなるよぬらう。女にまよといはたはたさへら。所
果多りらの或女果多の美名也。白名ハ鳥林フクロ一也
一みやまはらうと。六也院の場乃内ノのりをもつら。
此者亦又禁中をもつら。号ま。
一はくくぬらうとハつとあゆく。花内祓系とみらと
束のる人せらと。一みや 時 向云。此封のりと
つらつらつらと。ののあや。一也。戸の民也。みか。百
戸。いそハ民也。とらもくくくつららり。それと對
ともつらあも。一みやらと。みぬれがけと。み
死場シコよらうらと。あはれんあそ。はらさる也。

武家

七十五

月如くし。地は地の志を法衣の外と見しり
一交人の日陰のうらやまをくおを終て付るを
を明の夜會の思後日月の光とされぬとよと
とてとてのせりり 一とてとてとてとてとて
は何よつとて。花を咲かすはつとてとてとて
このもつとて。又花の官位は付。花を咲かすの
也。愚者もけ何の業のいふ入るありてとてとて
まよふとてとてとてとてとてとてとてとて
一とてとてとてとてとてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

まて也。もつとてとてとてとてとてとてとて
るれれ。人のいふとてとてとてとてとて
一とてとてとてとてとてとてとてとてとて
足の思方のいふとてとてとてとてとて
角よ。結山結山。枕するとてとてとてとてとて
あつとて 一とてとてとてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
のどくとてとてとてとてとてとてとてとて
何とてとてとて 一とてとてとてとてとてとて

の家よりすられぬと櫛乃美よまじりけし時かよみそ
 つくりされしものとみこり。是よりと櫛汝院に也
 一のめねあきすは海もま也
 一うくくえくあも也一うきすめるは花葉
 一うねき人へのりもやまはあやもさるぬんか
 一うらそががまもいふも也
 一ひらぎみ物もうらまはせむはら時らう
 ひりけてきる物也櫛うまも也
 一とんりりけ茶苑とのよめよらうすのの裳
 也よとんりり面ハ蘗芽は裏ハ萌芽也

一きつて人の家への介はぬね也ぬねは音
 無止時白蝦ハ長の本も也
 一うらまはせうすまうすまはは茶也白はあ
 りきのつみあまはうすまのうらまははも也
 一のぶきやちまはまらも也
 一下げし一^宝か司也。後よとつふまもつとと。
 ちたれた也 一うらまはははく
 こぬれも也 一うらまはははは
 れらう也。年よらと物もれらう也
 一うらまはははは病也。うらまはははは

一 江戸川にさかすかすを切てさうしうしてこ
てふぬ也。さきこころいふ所をいふ也。

一 一とそ 俗にさう也。一とそきまそとさうをたて

一 一とそ 俗にさう也。一とそきまそとさうをたて

一 牡丹糸 益沙洞也。一と下のくい 四位下加

階也。正四位下とさう也。くいの加階とさう也。

一 官とすまじり。なれ時又ハ好幸ちもど社時の例

一 在受 一とれとて 源氏のまう

一 ありとのね。ぬむのちもどくふも也

一 一とつとちぐりて 花今葉ちりハ襦也。裾也

衣のすそとさう也 昇衣はトグさねくく裾を

川裾也 一とぬくさねのまふ人のも

一 衣のもんじまう。花 袴の目。勅使るへも

一 深お長末とさう也。馬ゆはうく 袴。或和袴を

一 用。ホロ素とつらう也。一とちちとどと 女車。一とよ

一 掲ちるやも例ちけらとどと。これハ徳志のびる

一 ちあてひらう 一とれとてくさう

一 とらふらうことまじべし 一とものたれとてくさう

一 来るる冷霜花重。とらふとあつと。白しと

一 くるくく。めけるもあつとよ

江戸川

江戸川

一 川の流るるに連 日本記 介が海はあひし
流とちるる

一 ころりころり人々也。又志をあらみんと。定本より
は振人れ。本の家系ちるるころりあつひる。残のあま

川のか也
舌早也 漢付也
一 ころりころり人々也。又志をあらみんと。定本より

一 ころりころり人々也。又志をあらみんと。定本より
は振人れ。本の家系ちるるころりあつひる。残のあま

一 ころりころり人々也。又志をあらみんと。定本より
は振人れ。本の家系ちるるころりあつひる。残のあま

征の治とてころり。風雷乃多異とておひり。又
行中納もいふころり。花常盛とて西はた
左の太宰府また邊とていふ。やとて公の隠岐
国へちるるれし例とていふ。は略之
一 やうごんあてあけられとていふ。小聖廟
宰府下向之後。不封は桂を少て。然又は社
經を令惜漢法とていふ。ころり
一 ころりころり人々也。又志をあらみんと。定本より
は振人れ。本の家系ちるるころりあつひる。残のあま

外故人心
一 ころりころり人々也。又志をあらみんと。定本より
は振人れ。本の家系ちるるころりあつひる。残のあま

ひがらりやうに史記曰 趙高欲為乱 恐群臣不聽

及^レ志^シ設^テ驗^シ持^チ鹿^ノ獻^ス於^テ二世^曰馬^也二世^笑曰^魯相
謂^フ邪^カ謂^フ鹿^カ為^ス馬^ト問^フ尤^右之^ニ或^ハ默^ス或^ハ言^フ馬^ト以^テ
 阿^須趙^高或^ハ言^フ鹿^者高^陵中^諸言^鹿者^以法^ラ
秦始皇^本也
 一^一霜^後夢^漢宮^一割^リ月^前腸^昭君^の心
 と^仍自^らる^情と^やや^り給^也

一^一ら^らし^める^海海^のふ^もう^こる^しぬ^也れ
 と^人秋^よろ^く給^也と^ぬぬ^まさ^しう^らう^と也
 一^一三日^一と^受れ^つび^也一^一つ^とと^ささ^ると^うち^一
と^そと^そ河^孝徑^曰不^退有^死時

一^一十三^日此^日ね^とち^やう^に 八^月十三^日也^面白^く也^云
 一^一正^三位^は物^法今^世よ^不得^ス
 一^一十四^日又^日海^日れ^日と^ちま^るへ^ぎ十四^日善^賢十^一
 一^一日^阿弥^陀海^日尺^迦念^仏帝^行之^味也^云
 一^一は^よ二^度む^らの^ちま^ると^まる^びあ^られ^ぬ
 一^一し^のい^うこ^とま^ると^まる^へん^花着^袴の^もち^まる^こ
 一^一ち^もの^同中^臣後^の科^戸凡^乾方^天の^八重^へ
雲^と吹^拂う^とう 一^一つ^とと^ささ^ると^うち^一 女^院
 一^一は^よろ^くと^ぬぬ^まさ^しう^らう^との^もち^まる^この^もち^まる^こ
 一^一位^はよ^ろく^とぬ^ぬま^さし^うら^うと^親王^と

此^日ね^とち^やう^に
 八^月十三^日也^面白^く也^云

よらふはひかひちちるべし 一しつらく 宿法也

一いづかきりあうう ちぐさむはちくころ也。えりふ

ううハえり入るちやんくもぐい。文字づよちり也

一十三日ハ八河系ハ 河原ハせり解除すらん也

一いづかきりあうう ちぐさむはちくころ也。えりふ

一いづかきりあうう ちぐさむはちくころ也。えりふ

一いづかきりあうう ちぐさむはちくころ也。えりふ

一いづかきりあうう ちぐさむはちくころ也。えりふ

一いづかきりあうう ちぐさむはちくころ也。えりふ

一いづかきりあうう ちぐさむはちくころ也。えりふ

一いづかきりあうう ちぐさむはちくころ也。えりふ

一いづかきりあうう ちぐさむはちくころ也。えりふ

一いづかきりあうう ちぐさむはちくころ也。えりふ

一いづかきりあうう ちぐさむはちくころ也。えりふ

一いづかきりあうう ちぐさむはちくころ也。えりふ

一いづかきりあうう ちぐさむはちくころ也。えりふ

一いづかきりあうう ちぐさむはちくころ也。えりふ

一いづかきりあうう ちぐさむはちくころ也。えりふ

一いづかきりあうう ちぐさむはちくころ也。えりふ

一いづかきりあうう ちぐさむはちくころ也。えりふ

一いづかきりあうう ちぐさむはちくころ也。えりふ

一いづかきりあうう ちぐさむはちくころ也。えりふ

宿法也

例のまうくひもく花 兼平七年十二月十七日

と成るひてしひもく一しんてんれちちちつと

どる然るるとすに教よ力をちびんち也。教と解

月教次へちつと解を今うよすれぬち也。され

一いづかきりあうう ちぐさむはちくころ也。えりふ

一いづかきりあうう ちぐさむはちくころ也。えりふ

一いづかきりあうう ちぐさむはちくころ也。えりふ

一いづかきりあうう ちぐさむはちくころ也。えりふ

一いづかきりあうう ちぐさむはちくころ也。えりふ

一いづかきりあうう ちぐさむはちくころ也。えりふ

一いづかきりあうう ちぐさむはちくころ也。えりふ

一いづかきりあうう ちぐさむはちくころ也。えりふ

一いづかきりあうう ちぐさむはちくころ也。えりふ

陽成院は安寝殿西放り分之間立螺鈿飾

子。今案世志上は安寝殿西放り分之間立螺鈿飾

一いづかきりあうう ちぐさむはちくころ也。えりふ

一いづかきりあうう ちぐさむはちくころ也。えりふ

一いづかきりあうう ちぐさむはちくころ也。えりふ

一いづかきりあうう ちぐさむはちくころ也。えりふ

一いづかきりあうう ちぐさむはちくころ也。えりふ

一いづかきりあうう ちぐさむはちくころ也。えりふ

一いづかきりあうう ちぐさむはちくころ也。えりふ

一いづかきりあうう ちぐさむはちくころ也。えりふ

一いづかきりあうう ちぐさむはちくころ也。えりふ

つらや 略之

一 下 ぐくられ 疾をた

やふとして 東極 疾をすすもちたる也。他人

もくして。さらけ人のまひはさすももことり。

呼河海は人出とうきり。小用之。人出神保は舞。

定めてハ東極也。此の末に。公卿殿上人

等も舞する。もとん例之。陪送してハまきし

ことれ。とて連アちどぬべし。回云。河海は法署堂

ハ神系ノ試末執柄執事と。ちりり。時。秋の枝

をちりり。秋をうき守るは。時より。まはれば。悉

よ。金持の末に舞人秋むら。し。ころころ。ひらや。

一 勘い末 一 斐也。回云。東極の。秋。此。時。は。う

と。ころ。ふ。え。一 勘合。然。云。一。う。ま。う。と。し。ろ。と。也

一。う。ね。の。ま。う。一。ま。よ。い。り。り。礼。う。也。ま。ま。乃

一。う。ま。う。れ。る。と。ま。う。の。い。り。と。よ。也。り

一 下 ぐくられ 疾をすすもちたる也。他人

もくして。さらけ人のまひはさすももことり。

呼河海は人出とうきり。小用之。人出神保は舞。

定めてハ東極也。此の末に。公卿殿上人

等も舞する。もとん例之。陪送してハまきし

ことれ。とて連アちどぬべし。回云。河海は法署堂

ハ神系ノ試末執柄執事と。ちりり。時。秋の枝

をちりり。秋をうき守るは。時より。まはれば。悉

よ。金持の末に舞人秋むら。し。ころころ。ひらや。

九 下

の 下

しらばせ

一しうりの中のとら

和琴の弦の強し。如曲もれば素も倍へり也

ことさうむじも也 一七そりのけ服 海竹結

神咒の孔唄散社 堂達は七角役者也

しぬがさひごらなるくらへて 衣の下のま

かきぬるすうらひさめとつり。西の衣抄云。一臍

者止衣下るる下し流衣随使ふとさうり

一しでの山 千丰経 死天山門集鬼神

一やくちやう 仏名中之夜錫杖初後中とら

あは祝云とよめり 一しのあることと酒心

白氏文集十四紙 白紙とて

是君詩中是書經年不展 身病今自

用看生盡魚 靴は似るは臭とて

紙真衣真白真 一しあるとて 桑田

えりてまもる。とら君のつらきあまのあは

一帯不軽とらんつを 法華經不軽不我

教は等不救 救慢而者何汝等行菩薩

道當得如仏 尺も因位。不軽菩薩とて

女字の僧を讃て 曰流しれ舞し多へり。毛の切

特の仏性あるあまおづもるるも

して。高直はまやうにたのむ也

一ひらろ君河孝子院中皇太子。敦慶親王号ス。王
光宮好色を双足美人也

一ひらろのちのち 引入の大后とハ。身憎み親の
也。養の上れたた也。加冠の人也

一ひらろのつらにこれにまゝ秀人馬の奪。たはれ馬
とハ。たはる景のは馬也。奪てす入てハ。奪の奪人
馬の被友也。たはるまへひらろ係成。ひらろが此
の後乃光と云ふと云ひてま也

一ひらろゆびひて何由付てまをひらろ守人もあ也

一ひらろくられんれちちがけのむも也

一北条義隆 素深は天下の政をまへりつらつら

甲八有らるといふ。大細をまへて義隆と云。北条義隆と

のまへる事おはるめと田位ちかものも也

一ひらろもた 去る相無負相た。あ流也

一ひらろが 昔は尼まらるといふ。も今の名にむか

らへず。これ尼とて。喝食ちこれや。いひて

也。へらとていひて也。いひていひていひて

アコトあり 一ひらろあり 吉出河

頻歳人のちく時足まひるいふと云ふ也。又年

北条下

北条下

遊池せひんすゝらよと云回々

ひんや火燒金^{ヒヤヤ}神供しつむる也

ひんけり河花^{カハナ}共^{トモ}叩^{ヒキ}とある。叩^{ヒキ}まひん也

ひんづらぬ 羨^{ウラヤム}まらるとある。ひんづらぬ

し也 ひんづら 長和二年三月

雷鳴氷降大如梅^{カミナリヒコメ}あられる也

一人のみごめとあると云んぞて傳説^{デンゼツ}未^ミ古^コ又^{マタ}不^フ

可^カ勝^{カチ}斗^ト也^也 羨^{ウラヤム}ハ^ハあつらひれぬ。瑞^{ミズホ}わらふは後^{ノチ}

と也 びんづらのひんづら

琵琶^{ヒナ}ひんづらあるとくは神也。南^{ミナミ}時^{トキ}の首^{カビ}目^メのどし

一人のらあも時^{トキ}らうら中^{ナカ}ま^マあ^アう^ウぬ^ヌら^ラ漢^{カン}高^{カウ}

神^{カミ}威^イ丈^{ヤウ}人^{ジン}と竈^{カマド}も^モう^ウら^ラ也^也 趙^{テウ}王^{ワウ}如^ニ意^イ也^也

と^トう^ウら^ラ也^也 時^{トキ}ら^ラう^ウら^ラ也^也 張^{チヤウ}良^{リヤウ}は^ハ後^{ノチ}

らう^ウら^ラ也^也 張^{チヤウ}良^{リヤウ}は^ハ後^{ノチ}

り^リて^テも^モう^ウら^ラ也^也 高^{カウ}祖^ソの^ノ朝^{チヤウ}し^シは^ハ高^{カウ}

た^タは^ハあ^アら^ラう^ウら^ラ也^也 羽^ウ翼^{キヤク}は^ハあ^アら^ラう^ウら^ラ也^也

ら^ラう^ウら^ラ也^也 高^{カウ}祖^ソの^ノ朝^{チヤウ}し^シは^ハ高^{カウ}

ひ^ヒん^ンづ^ズら^ラ也^也 羨^{ウラヤム}ま^マら^ラう^ウら^ラ也^也

ひ^ヒん^ンづ^ズら^ラ也^也 羨^{ウラヤム}ま^マら^ラう^ウら^ラ也^也

の^ノあ^アら^ラう^ウら^ラ也^也 羨^{ウラヤム}ま^マら^ラう^ウら^ラ也^也

さねととも也

一ひと来よ 昇階の此番

肝要とあつとも也

一ひびりんのさつんのねはす

さつれびりく 天海寺に合ふ方洲溪に系檀机

蘇芳下机に系綺地なまき今系丸方松も

は系檀のねよ入て蘇芳のまよそつてねりけり

よまも又下づくまきんしきま地はひまのうけ綺

也。おまぬハ机とすへう地後也。それハ蒲苜蓿

くの綺也。花足ハ机の足蕨の祈也

一丸ち張うまひらひりそとそに 哥合殿格とそわ

也。天徳の身合よ。合流者枝と例溪はすへてす

はしれそあよ。く。花の枝あてうすともひりあや

ひりのこがよんひ 次生蛙兒雛也三歳而脚不立

四五廿九 一日のともよさうははらん

ら。陽成院のね母二系后也。新新中格ちうづき

とある。存勢物語よカてうら。それとくく大徳

ふ文ちとぐらな也 一ひびりひていさう也

一ひびり中々のあまふのちの山松をよまふあす

の十日あまうりのねよ。さうしうらうらう法使

式ア。忠忠隆まうらんがまひひておちる

うら。まのひらうらうらうらうらうらうらうら

と織付る物也

一屏内里作らるる物也

うさぎのしほりものほりて勅筆の絵也又青とあ

そととらふことと見えうさぎのあやの唐摺りとも

うさぎの唐摺り也。うさぎのうさぎはうさぎ也

一ひさしちりちりぐりこもあまのうさぎ也

一人かたり 忠臣不事二君貞女不更二夫

二日一夜もそとつじと 往生礼讃云の中寄中

行中根人一日安戒處金蓮 吾守

一ひさしちりちり 光惠。淡州院は後唐し終三年

後つるま田下唐し終るものと云也。天子の崩八景

一火とけりちりちり 一火と氷真

一火とけりちりちり 一火と氷真

一火とけりちりちり 一火と氷真

一火とけりちりちり 一火と氷真

一火とけりちりちり 一火と氷真

一火とけりちりちり 一火と氷真

一火とけりちりちり 一火と氷真

一火とけりちりちり 一火と氷真

一火とけりちりちり 一火と氷真

一火とけりちりちり 一火と氷真

下

下

尺さうらひちうくのちのちのち

一ひぐんのしそく時正の吉白から後とは若くは若くは

一ひにばー 夜星白よびせり

一人のふまあるとらんきれさうり 元魂香のころ也

李武人らもそく後漢武帝中泉後 聖皮貞岳

方士しそく靈薬と合をしそく金知は焚一

うまのの煉乃中こま人の姿のみしる也

一人のしれ 彼の浦 出帆のふあ也

一ひとアアア 聖人をもれせにゆりせらる候とも也

一ひさうれは下 在車系毛也

一ひらうの山頂柳毛車 一びやうがのうらうは若くは

後又とらへし 一人のふまとも 元生を

造折言程度 一ひのあつてこやうに片

ふそくともり 一ひさあけのふら也

一ひもろー 赤家の紐ともろくして体身まうれも

夕へのれまき 一人のふまを 波ありの

奇や向ふへもそくしてころもあふちとの候也

一ひつじのあもき 層不羊歩吉是唐去羊牧至

食村よのをまき層不お具そて行殺歩にたさひえ死

地まらふもきききいそて人ののむとらり 解後書

木下

七

たつたのふまは佳も。後園母の如し

一ひねりせひひり入てあめ

一ひねりせひひり入てあめ

一ひねりせひひり入てあめ

一ひねりせひひり入てあめ

一ひねりせひひり入てあめ

一ひねりせひひり入てあめ

一ひねりせひひり入てあめ

一ひねりせひひり入てあめ

一ひねりせひひり入てあめ

一ひねりせひひり入てあめ

一ひねりせひひり入てあめ

一ひねりせひひり入てあめ

一ひねりせひひり入てあめ

一ひねりせひひり入てあめ

一ひねりせひひり入てあめ

一ひねりせひひり入てあめ

一ひねりせひひり入てあめ

一ひねりせひひり入てあめ

一ひねりせひひり入てあめ

一ひねりせひひり入てあめ

一ひねりせひひり入てあめ

一ひねりせひひり入てあめ

一ひねりせひひり入てあめ

一ひねりせひひり入てあめ

一ひねりせひひり入てあめ

一ひねりせひひり入てあめ

又業内ノととらへりあふるべし

一 口と兄ノとさるるを一口とさるるを一口とさるるを一

しれ角ノのん也 一世のたもとさるるを一

一 取立をたれ自らたれをたれ長久のん也

一 海濱の輪臺をたれ海濱の序也一つれも

あり。南宮ノ議云は曲曲乘和法時た納之良峯

安世紀良勅令下作之舞時後勅改成盤盤

游調但詠小野箕作略之

一 世ノカドノのノもノめノやノはノ戚丈人ノもノさノめノ

一 後ノまノらノくノもノ今ノらノらノれノらノらノ必ノあノるノべシ

とのん也。戚丈人ハ漢高祖の妾趙主如意の母也。

惠帝の太子めてありしを。之くんとも。一と

とつあふるるも。ずして。高祖ハ崩したる惠

帝位をつぎきて後。呂太后たれびとひせん

て。戚丈人の眼とわくそ人。地と名づけく。をたれ

中よと。こくをたれしもの。う。也。史記曰。呂

后本江太。后遂勅戚丈人。以是去眼。燻耳。飲

瘡。兼使居厨中。余曰。人最

也。やう。せん。障。う。と。と。せ。と。や。う。と。と。也。

一 軟障とわくも幕のやうらうたよ。さ。の。さ。ね。ち。と

後よりさへ壁よりへてり也

一也を元神 早下^ノの初也。或ハ下宿もさると。初^ノの
一也といふ也

俗は作らざりて。一也といふ也。一也といふ也。一也といふ也。

一也といふ也。一也といふ也。一也といふ也。一也といふ也。

一也といふ也。一也といふ也。一也といふ也。一也といふ也。

一也といふ也。一也といふ也。一也といふ也。一也といふ也。

一也といふ也。一也といふ也。一也といふ也。一也といふ也。

日本記

日本記

一 下らるるの日のちのぎしき成るけしめゆのぎしき
 一 とももとの白馬を引また馬寮の及び下供奉を
 一 儀式をとり一なるめや昔のありしをまきか
 一 家の良房の由り例るをれまをくつらに
 一 小賁任をくく 仁徳天皇四年始置諸国史在明
 一 天皇永和元七月勅諸国守め云四年不為限
 一 但陸奥出羽を宰是云官国始自執事等
 一 避在千里以五年可為任限云
 一 一ささくつら 文らどいふさく一あつら也
 一 一ささくつら 小賽 一せんさくわらひをんはらら

一 ありにげんのりのん也成辨きくをば兼概也是ハ
 一 ありありの辨如へし辨一せんさくわらひくつらぬ
 一 朱雀院山蔭のしめり也
 一 一せんさくつらをの記權也又辨と三ハ
 一 とももとの水ちをいふ又辨と云ふなり
 一 一せんさくつら切とくハ入たの是記云信信云と以て
 一 書つし民の忠文とつひ一人背東夷とつひと
 一 分大將軍ちりしが子細ありて信信云の惣意
 一 敷てふ縁を退治しるよむたの是記を以して
 一 あり也河海毒 一せんさくつらとつら地

一 一せんさくつら

一 一せんさくつら

名也ヤマト仙ヤマト花カ霞カ

思ヒ情シヨ結ケ七シ恨ミ弄ル

一ヒ世セでんデンよヨクク故コ虫ムシ記キ

一ヒ世セんンじジつツたタ子シ河カ内チが

よヨへヘんンくクつツとトまマ之シ或ハいイたタまマとトまマ。瞿ク夷イ太タイ子シ

善ゼン巧コウ日ニ多タ也ヤ耶ヤ修シュ多タ羅ラ之シ日ニ位イ瞿ク夷イ也ヤ羅ラ瞿ク

羅ラ瞿ク夷イハハ仏ブツ出シュツ家カのノ後ノチ六ロク年ネンよヨ生シヨウ活カツしシたタ人ニ

くクがガひヒくクつツとトまマとト花ハ耶ヤ修シュ多タ羅ラをヲババ瞿ク夷イ灯トウ仏ブツ

のノ出シュツ世セのノ時トキ瞿ク夷イ女メとト云イハ故コ也ヤ所ヲ瞿ク夷イのノワワ身ミよヨ

とトひヒじジつツとトまマとトまマ別ワカのノ因イン縁エンあアるルべベきキまマやヤとト

らラハハ花ハ舎シャよヨとトまマとトまマ二ニ業セウ成ジュウまマのノまマとトまマとトまマ

らラとトまマとトまマのノ記キ別ワカとトまマとトまマのノ時トキ我ガ為タるル太タイ子シ

時トキ所ヲ瞿ク夷イ為タるル我ガ今イマ成ナリ仏ブツ乃ハ文モン法ポフ為タるル注チヨウ子シ湯トウをヲ
洗センふフとトまマとトまマのノ記キ別ワカとトまマとトまマのノ時トキ我ガ為タるル太タイ子シ
よヨとトまマとトまマのノ記キ別ワカとトまマとトまマのノ時トキ我ガ為タるル太タイ子シ

一ヒ世セらラふフ四シ月ゲツのノ節セツよヨ八ハチ歲サイ時トキ也ヤ

一ヒ世セらラ川カハのノ上ノにニおオもモとトまマとトまマのノ記キ別ワカとトまマとトまマのノ時トキ我ガ為タるル太タイ子シ

一ヒ世セらラもモんンとト松マツ門カド曉トキ到キ月ツキ離リ相ソウ自ジ成ニ集スとトまマとトまマ

とトまマのノ記キ別ワカとトまマとトまマのノ時トキ我ガ為タるル太タイ子シ

す

一ヒ世セらラけケちチ何ナニ人ヒトらラとトまマとトまマのノ記キ別ワカとトまマとトまマのノ時トキ我ガ為タるル太タイ子シ

一ヒ世セ又マタすスもモもモれレんン也ヤ一ヒ十ジュウ人ヒトそソ部ブのノ字ジ也ヤ

山ヤマ下ノ

山ヤマ下ノ

一すのいぶれおすのこえんもとせがらふふちりま
 こりいふとひり 一すれちりこすのうら也
 一すうい路をやし路とらふん也
 一すどがらよ 海すら也 ぼんぶともすーとせと
 一すくくくく ともれることとせすくくく 洞也
 一すしちりひとく すとハ移ぬまぬ也 本丁の
 くくひく二をちるぶさびをちるをひとくともひり
 一朱雀院の行幸 朱雀院ハあり内の所門ハか
 りますす成中也。と系朱雀は四町ハ遠らふと
 延喜の所すよハ。う多門と朱雀院とす侍らりや

多門門ハハ見平は御堂とす也 十月の行幸と
 ハ。いづの賀乃すぬべしと云杖の行幸とてあり。
 是とてさうさんの行幸といひり。は春の甲子の
 とも系がすよハあり 一すあつじ 和ハ高しう系
 さくよ。う。海すらつひ也 一すくれいよすふれみや
 ともれの勢也 一すのぶんつあや 陸也
 此位の人也。一すこまりくうさ高也
 一すろよ ともろ何にちるすの心也
 一すはり 陸法行縁也。所の字さへんが。いふも。
 一すちりこすも。一すのちもぶ也

九家

の七

一すきくろくろ 逸くろく 袋也

一すくぐり 竹ちび ぶくすくすく ころ 埴也 埴

一すれこ せんぞ せんぞ せんぞ ころのすれ せんぞ せんぞ

ころへし

一すくろ ころへし ころへし ころへし ころへし

一すくろ ころへし ころへし ころへし ころへし

一すくろ ころへし ころへし ころへし ころへし

一すくろ ころへし ころへし ころへし ころへし

一すくろ ころへし ころへし ころへし ころへし

一すくろ ころへし ころへし ころへし ころへし

のち。くろくろ 逸くろく 袋也 一すくろ ころへし ころへし ころへし ころへし

一すくろ ころへし ころへし ころへし ころへし

一すくろ ころへし ころへし ころへし ころへし

一すくろ ころへし ころへし ころへし ころへし

一すくろ ころへし ころへし ころへし ころへし

つらふらふも也

すのふらんりーのふらん

人ズイジとありあつる物べし。人々を養ふはあつる

下
すのふらんりーのふらん

大吏入内を物也
すのふらんりーのふらん

の順シヨウは下され也
すのふらんりーのふらん

何事ナニも也
すのふらんりーのふらん

とていかん小の皇ミコ記キよ。志守シモのすのふらんりーのふらん

あつるは地チぐらうをけりいふ守の月ツキいふあつる

トと人のつひたればまを結冬ツキのうらうとあつる

れねふのそをぬけり。すのふらんりーのふらん

女院メノイン崩内ホウナイ依諒ヨリヤウ閣カク被傍ヘナリ止也

すのふらんりーのふらん

すのふらんりーのふらん

すのふらんりーのふらん

すのふらんりーのふらん

すのふらんりーのふらん

すのふらんりーのふらん

すのふらんりーのふらん

すのふらんりーのふらん

ひつろふまをくらんばらと也

「^{ミヤ}すゑもん^{ミヤ}湯^{ミヤ}がけ^{ミヤ}も也」^{ミヤ}丁^{ミヤ}ぐ^{ミヤ}法^{ミヤ}ひを^{ミヤ}慢^{ミヤ}下^{ミヤ}法^{ミヤ}
そしと也
^{ミヤ}下^{ミヤ}子^{ミヤ}法^{ミヤ}の^{ミヤ}か^{ミヤ}又^{ミヤ}少^{ミヤ}う^{ミヤ}ま^{ミヤ}い^{ミヤ}こ^{ミヤ}い^{ミヤ}た^{ミヤ}回^{ミヤ}也

「^{ミヤ}朱雀院^{ミヤ}の^{ミヤ}法^{ミヤ}門^{ミヤ}わ^{ミヤ}り^{ミヤ}し^{ミヤ}法^{ミヤ}華^{ミヤ}の^{ミヤ}後^{ミヤ}あり^{ミヤ}し^{ミヤ}法^{ミヤ}華^{ミヤ}ハ^{ミヤ}名^{ミヤ}の^{ミヤ}う^{ミヤ}
い^{ミヤ}ま^{ミヤ}て^{ミヤ}の^{ミヤ}う^{ミヤ}

「^{ミヤ}すゑもん^{ミヤ}湯^{ミヤ}がけ^{ミヤ}も也」^{ミヤ}丁^{ミヤ}ぐ^{ミヤ}法^{ミヤ}ひを^{ミヤ}慢^{ミヤ}下^{ミヤ}法^{ミヤ}

「^{ミヤ}了^{ミヤ}今^{ミヤ}未^{ミヤ}内^{ミヤ}典^{ミヤ}外^{ミヤ}典^{ミヤ}は^{ミヤ}交^{ミヤ}と^{ミヤ}り^{ミヤ}の^{ミヤ}う^{ミヤ}わ^{ミヤ}り^{ミヤ}と^{ミヤ}
し^{ミヤ}た^{ミヤ}今^{ミヤ}れ^{ミヤ}地^{ミヤ}終^{ミヤ}は^{ミヤ}く^{ミヤ}る^{ミヤ}ハ^{ミヤ}昔^{ミヤ}也^{ミヤ}他人^{ミヤ}の^{ミヤ}又^{ミヤ}終^{ミヤ}の^{ミヤ}奇^{ミヤ}夢^{ミヤ}
と^{ミヤ}り^{ミヤ}の^{ミヤ}う^{ミヤ}ま^{ミヤ}い^{ミヤ}こ^{ミヤ}い^{ミヤ}た^{ミヤ}回^{ミヤ}也
す^{ミヤ}ゑ^{ミヤ}へ^{ミヤ}し^{ミヤ}え^{ミヤ}湊^{ミヤ}法^{ミヤ}と^{ミヤ}も^{ミヤ}ハ^{ミヤ}梵^{ミヤ}法^{ミヤ}ハ^{ミヤ}種^{ミヤ}迷^{ミヤ}也^{ミヤ}山^{ミヤ}唐^{ミヤ}

よの^{ミヤ}妙^{ミヤ}の^{ミヤ}う^{ミヤ}ま^{ミヤ}い^{ミヤ}こ^{ミヤ}い^{ミヤ}た^{ミヤ}回^{ミヤ}也

地^{ミヤ}又^{ミヤ}入^{ミヤ}る^{ミヤ}ハ^{ミヤ}少^{ミヤ}中^{ミヤ}也^{ミヤ}自^{ミヤ}地^{ミヤ}と^{ミヤ}也^{ミヤ}ハ^{ミヤ}未^{ミヤ}合^{ミヤ}て^{ミヤ}十^{ミヤ}六^{ミヤ}也^{ミヤ}

の^{ミヤ}山^{ミヤ}も^{ミヤ}る^{ミヤ}ハ^{ミヤ}少^{ミヤ}中^{ミヤ}也^{ミヤ}東^{ミヤ}西^{ミヤ}南^{ミヤ}北^{ミヤ}の^{ミヤ}中^{ミヤ}に^{ミヤ}

あり^{ミヤ}。日^{ミヤ}の^{ミヤ}中^{ミヤ}に^{ミヤ}あり^{ミヤ}。書^{ミヤ}法^{ミヤ}と^{ミヤ}也^{ミヤ}。照^{ミヤ}と^{ミヤ}也^{ミヤ}。

つ^{ミヤ}ら^{ミヤ}。法^{ミヤ}の^{ミヤ}中^{ミヤ}に^{ミヤ}あり^{ミヤ}。石^{ミヤ}の^{ミヤ}中^{ミヤ}に^{ミヤ}あり^{ミヤ}。法^{ミヤ}の^{ミヤ}中^{ミヤ}に^{ミヤ}

あり^{ミヤ}。法^{ミヤ}の^{ミヤ}中^{ミヤ}に^{ミヤ}あり^{ミヤ}。石^{ミヤ}の^{ミヤ}中^{ミヤ}に^{ミヤ}あり^{ミヤ}。法^{ミヤ}の^{ミヤ}中^{ミヤ}に^{ミヤ}

あり^{ミヤ}。法^{ミヤ}の^{ミヤ}中^{ミヤ}に^{ミヤ}あり^{ミヤ}。石^{ミヤ}の^{ミヤ}中^{ミヤ}に^{ミヤ}あり^{ミヤ}。法^{ミヤ}の^{ミヤ}中^{ミヤ}に^{ミヤ}

あり^{ミヤ}。法^{ミヤ}の^{ミヤ}中^{ミヤ}に^{ミヤ}あり^{ミヤ}。石^{ミヤ}の^{ミヤ}中^{ミヤ}に^{ミヤ}あり^{ミヤ}。法^{ミヤ}の^{ミヤ}中^{ミヤ}に^{ミヤ}

あり^{ミヤ}。法^{ミヤ}の^{ミヤ}中^{ミヤ}に^{ミヤ}あり^{ミヤ}。石^{ミヤ}の^{ミヤ}中^{ミヤ}に^{ミヤ}あり^{ミヤ}。法^{ミヤ}の^{ミヤ}中^{ミヤ}に^{ミヤ}

あり^{ミヤ}。法^{ミヤ}の^{ミヤ}中^{ミヤ}に^{ミヤ}あり^{ミヤ}。石^{ミヤ}の^{ミヤ}中^{ミヤ}に^{ミヤ}あり^{ミヤ}。法^{ミヤ}の^{ミヤ}中^{ミヤ}に^{ミヤ}

法華

